

①都道府県・市区町村名	栃木県・日光市	②補助事業の種類 (どちらかに「○」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			II	世界文化遺産活性化事業
③実施計画の名称	世界遺産「日光の社寺」(日光二荒山神社、日光東照宮、日光山輪王寺)を活用した地域活性化事業			
④実施計画期間	平成28年4月～平成28年12月			
⑤過去の補助事業実績				
平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成25年度文化遺産を活かした地域活性化事業				千円
平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業				千円
平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業				6,211千円
⑥計画の実施状況(概要)				
※平成28年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
<p>&lt;平成28年度&gt;</p> <p>1. 世界遺産「日光の社寺」に係る情報発信事業</p> <p>(1) 世界遺産「日光の社寺」PR用外国語パンフレット作成事業</p> <p>世界遺産「日光の社寺」へ国内外から多くの観光客が訪れており、近年特に外国人観光客数が増加している。</p> <p>平成24年度より世界遺産「日光の社寺」の文化的・歴史的価値を伝えるパンフレットを作成しており、平成27年度には世界遺産「日光の社寺」を活用した地域活性化プランを策定し、本事業を活用して、世界遺産「日光の社寺」PR用外国語パンフレットの作成、日光東照宮400年式年大祭を迎える年である日光東照宮を拠点とした文化継承教室やシンポジウムを開催し、市内外・海外の方々に世界遺産「日光の社寺」の魅力発信及び文化価値の再認識を促進した。</p> <p>平成28年度においても世界遺産「日光の社寺」を活用した地域活性化プランを策定し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、今後さらに多くの外国人観光客が来訪することが予測されるため、世界遺産「日光の社寺」の文化的価値を理解してもらうために、現在来訪者数が増加傾向にある、タイ・フランス・ドイツ・イタリア・スペイン語版のパンフレットを作成し、文化的・歴史的価値を理解していただき、誘客を促進した。また、市内各施設でのパンフレットの設置をはじめ、JNTO認定外国人観光案内所のカテゴリ2に指定されている、日光郷土センターやJR日光駅の観光案内所(年間外国人利用者数:約4万人)及び東武日光駅の観光案内所(年間外国人利用者数:約3万人)の窓口にも設置し、世界遺産「日光の社寺」に対する価値の理解を深めていただいた。</p> <p>また、日光市HPや外国人観光客向けの日光シティWi-Fiのメインページに掲載するなど、外国人観光客の利便性を向上し、文化的価値の発信につなげる。</p> <p>○作成部数:世界遺産「日光の社寺」外国語パンフレット タイ語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・スペイン語 各4,000部</p> <p>&lt;平成27年度&gt;</p> <p>1. 世界遺産「日光の社寺」に関わる総合的な情報発信事業</p> <p>(1) 「世界遺産芸術祭」開催に係る情報発信</p> <p>「世界遺産芸術祭」として開催する下記事業全体の宣伝、および世界遺産「日光の社寺」の価値の発信を目的として、ポスターおよびチラシを作成し、市有施設をはじめ市内各観光施設や市外</p>				

旅行代理店、市外イベント開催時にて設置・配布し、広く情報を発信した。

◆期間：平成28年10月2日（金）～12日（月・祝）

◆会場：日光東照宮客殿ほか

◆開催内容

①補助対象内事業

ア.世界遺産大學（10月3日 日光東照宮客殿）

②補助対象外他団体主催事業

ア.日本の美を愛でる in 日光東照宮（10月2日 日光東照宮客殿）

イ.春風亭小朝独演会（10月4日 日光東照宮客殿）

ウ.宝生流蠟燭能（10月5日 日光東照宮客殿）

エ.大相撲横綱土俵入り（10月7日 五重塔前特設ステージ）

オ.市川海老蔵特別記念公演（10月10日・11日 五重塔前特設ステージ）

カ.MayJ.Special Concert（10月12日 五重塔前特設ステージ）

◆作成部数：ポスター1,000部、リーフレット10,000部

(2)世界遺産「日光の社寺」外国語パンフレット作成事業

世界遺産「日光の社寺」へは多くの外国人観光客が訪れているが、一般の観光パンフレットは多言語で作成されているものの、世界遺産の価値を伝えるパンフレットは行政においても、社寺においても作られていない現状にあった。今後、東京オリンピック・パラリンピックなどを契機にさらに多くの外国人観光客が来訪することが予想され、外国人観光客の方にも世界遺産「日光の社寺」の価値を理解してもらうために外国語パンフレットを作成した。

◆作成部数：英語・中国語（繁体・簡体）・韓国語 各4,000部

2.世界遺産大學などによる啓発普及事業

(1)世界遺産大學（シンポジウム）

◆主催：世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会

◆開催日：平成27年10月3日（土）午後1時～4時

◆会場：日光東照宮客殿

◆出演者：アレックス・カー氏（東洋文化研究者）、春風亭小朝氏（落語家）、綱川榮氏（「聖地日光」執筆者）

◆内容：演題「徳川家康公と江戸文化」

徳川家康公は、平和(パクストクガワナ)や江戸文化の隆盛をもたらした。江戸文化の特徴は、何よりそれ以前の特権者の独占物であった文化を、文化の表現者や享受者を庶民にまで広げたことにある。江戸文化の特質と、その粋を結集した日光東照宮と日光の未来を語るシンポジウムを開催した。

3.ワークショップや体験活動による啓発普及事業

(1)日光文化継承教室

◆主催：世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会

◆協力：日光東照宮、日光社寺文化財保存会

◆会期：平成27年8月6日（木）～21日（金）のうち、各2日ずつ

◆内容：日光東照宮に伝わる流鏝馬神事や伝統芸能である舞に触れ、親しみを感じてもらうワークショップを開催した。また、平成の大修理修復作業の見学をしてもらい、世界遺産文化の保護や意義の認識を図った。

①平成の大修理修復作業の見学と講演

- ◆募集人数：20名×2日
- ◆開催日：平成27年8月6日・7日
- ◆会場：日光東照宮陽明門、日光社寺文化財保存会作業場

②流鏝馬体験(木馬)：レクチャーと体験

- ◆募集人数：20名×2日
- ◆開催日：平成28年8月10日・11日
- ◆会場：日光東照宮五重塔前特設ステージ

③伝統芸能体験：日光の伝統行事の担い手育成と体験

- ◆募集人数：8名×2日
- ◆開催日：平成28年8月20日・21日
- ◆会場：日光東照宮武徳殿

⑦事業実施による効果等の検証・分析結果

※平成28年度までの計画の実施により得られた効果や実施後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

<平成28年度>

1. 世界遺産「日光の社寺」に係る情報発信事業

(1) 世界遺産「日光の社寺」PR用外国語パンフレット作成事業

①着地での情報発信事業への活用

作成したパンフレットを二社一寺や日光郷土センター、JR日光駅の観光案内所及び東武日光駅の観光案内所に設置し、日光へ来訪した外国人観光客に向けて世界遺産「日光の社寺」の文化的・歴史的価値の理解促進に繋げている。なお、前述の観光案内所の窓口を訪れた外国人観光客に対し、パンフレットを活用し「日光の社寺」の魅力普及や誘客促進に取り組んでいる。

②発地での情報発信事業への活用

東京都千代田区にある、多くの外国人等を対象とした日光市の観光PR業務を行う、日光市観光情報発信センターを活用してパンフレットをPRし、日光市外においても「日光の社寺」の魅力発信及び誘客促進を行っている。

また、日光へ来訪予定の外国人に対し事前にパンフレットを提供し、来訪した際により深く、「日光の社寺」を理解していただくための事前資料として活用している。

③ボラティアガイドとの連携

栃木県内で活動している、国際交流協会や外国人向けの通訳ボランティアガイド団体に研修等でパンフレットを活用していただき、ボランティアガイドの育成に取り組むとともに、「日光の社寺」の文化的・歴史的価値の理解促進を図っている。

④ICTを活用した情報発信事業への活用

日光市HPや外国人観光客向けの日光シティWi-Fiのメインページにパンフレットのデータを掲載し、ダウンロードでき自由に閲覧できるようにし、外国人観光客の利便性を向上し、「日光の社寺」の魅力発信に取り組んでいる。

【効果実績】

①パンフレットの配布部数	実施計画策定時	各	1,000部/年
	実績	各	1,600部/年(達成率160%)
②来訪した外国人観光客数	実施計画策定時	77,000人/年	
	実績	92,448人/年	(達成率120%)

〈平成 27 年度〉

## 1. 世界遺産「日光の社寺」に関わる総合的な情報発信事業

### (1) 「世界遺産芸術祭」開催に係る情報発信

10月2日から12日までの期間にわたって、日本が誇る歌舞伎、能などの一流芸能の公演や着物のファッションショーなどを行う「世界遺産芸術祭」を世界遺産「日光の社寺」の一つである日光東照宮にて開催した。

今事業にて作成したポスターやリーフレットを市有施設や市内各観光施設、旅行代理店、市外イベントにて設置・配布して告知・広報した世界遺産芸術祭として開催された7事業（前述の通り）の総来場者数は、7,000名を超えた。日光東照宮の拝観数も震災後右肩下がりだったが、世界遺産芸術祭が開催された平成27年10月の参拝者数は、前年同月比約43,000名増の267,106名となり震災前の平成22年同月の拝観者数266,423名を超え、今事業により世界遺産「日光の社寺」への誘客促進に寄与することができた。

### (2) 世界遺産「日光の社寺」外国語パンフレット作成事業

世界遺産「日光の社寺」PR用外国語（英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語）パンフレットを各4,000部ずつ作成した。

パンフレットは、二社一寺や日光市内各観光施設、平成27年6月に東京都千代田区に開所した外国人等を対象として日光市の観光PR業務を行う日光市観光情報発信センター、旅行代理店などにおいて配布することにより、日光に来た外国人観光客の二社一寺への誘客や、日本に来た外国人観光客の日光への誘客を図っている。内容については、世界遺産「日光の社寺」の概要や歴史的背景、文化財保護について等、詳細を紹介しており、世界遺産「日光の社寺」の文化的・歴史的価値を普及し、より深く理解していただくことにより、誘客促進やリピート率の向上を図っている。

また、市内外の方から、外国人の友人が日光へ訪れるため、パンフレットを事前学習に活用したい旨の連絡が来ており、外国人に対して事前学習資料としても活用している。

## 2. 世界遺産大学などによる啓発普及事業

### (1) 世界遺産大学（シンポジウム）

専門家や伝統芸能継承者を交えたパネルディスカッションや地元の伝統芸能を披露するシンポジウムを実施した。チラシやウェブサイト等の告知で定員400名に対し466名（目標達成率116.5%）の応募があり、厳正な抽選で聴講の当選者を決めた。チラシは、日光市内の各施設のほか、都内イベントにおいても配布し、都内からの応募人数も20名を超え、県外在住者の世界遺産「日光の社寺」に対する関心の高さが伺えた。

アンケートの結果から、世界遺産「日光の社寺」の歴史的・文化的価値についても、パネリストによる様々な視点での講話により改めて認識できたとの意見も多くあり聴講者の意識に変化があったことが伺えた。講話やアンケートでの意見も取り入れ、今後も引き続き、より多くの方々に日光の社寺の魅力発信を行っていく。また、今回参加者の年齢層は高く、参加の少なかった、今後リピーターになりうる若年層に向けても魅力を発信し、誘客促進に繋げていく。

出演していただいた地元伝統芸能の団体に対する問合せが市民を中心にあつたとの報告を受けており、興味・関心を醸成できたことも伺え、伝統芸能団体関係者の「継承意識」の高揚の醸成にも結びつけることができた。

なお、新聞やテレビ等においても本事業が紹介され、多くの方に世界遺産「日光の社寺」をPRすることができた。

## 3. ワークショップや体験活動による啓発普及事業

### (1) 日光文化継承教室

文化財保護への理解促進と伝統文化の人材育成を目的に、主に親子を対象として、平成の大修理をしている陽明門の修復作業などの見学や日光東照宮に伝わる流鏝馬と伝統芸能である舞に触れる体験教室を実施した。

チラシと新聞、ウェブサイトで告知を行い、平成の大修理見学の参加者数は、39名、流鏝馬体験の参加者数は24名、舞の体験の参加者数は12名（目標達成率78.1%）となったが、アンケート結果から、参加者の約98%が満足したと回答しており、満足度の高さが伺えた。

また、アンケート回答から、伝統芸能の体験や世界遺産の修復見学などにより、親子共に地元への誇りを感じることができたという意見や今回の貴重な経験により、遠い存在であった世界遺産や伝統芸能が身近に感じたという意見も多かった。

参加者数は目標達成に至らなかったが、参加者の満足度の高さやアンケート回答、また後日日光東照宮あてに伝統芸能を習いたいといった主旨の問合せがあったとの報告を受けており、世界遺産とそこにある伝統芸能の存在と価値を再認識でき、地域に対する愛着と誇りを醸成できた。

日光東照宮の職員からも、本事業をきっかけにこれらの伝統芸能を継承していくために事業を実施する必要があるといった話も出てきており、当事者も含め多くの方々に文化継承の意識の高揚を醸成することができた。

新聞やテレビなどのメディアにおいても、本事業が報道されるなど、県内をはじめ全国に世界遺産「日光の社寺」に係る文化財の保護への意識や伝統文化継承への意識を発信することができた。